

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

令和6年5月27日

校長 綿貫 芳人

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

一人ひとりが

校長 綿貫 芳人

新しい年度が始まり、約2か月が経とうとしています。少しずつですが、新しい環境にも慣れてきた頃だと思います。一方で、最初だからと頑張ってきた人にとっては、疲れがたまるところですので、無理をせずに体調第一に学校生活を過ごしてもらいたいと思っています。5月に1年生はソレイユの丘での体験学習、2年生は浅草方面への校外学習、そして体育祭、さらに6月には、3年生の奈良・京都方面への修学旅行が予定されています。生徒一人ひとりが役割を果たし、自分自身が役に立ったという実感が持てるように取り組んでいきます。この学校だよりが発行される頃には、実施済みの行事もあると思います。詳しくは、次号の学校だより等で各行事の様子をお伝えできたらと思います。

さて、部活動では新チームによる大会が行われ、5月の全校集会でも多数の表彰を行いました。今年度も、3年生を中心とした部活動の活躍を予感させられました。昨年度も、いくつかの部活動の試合に応援に行き、エネルギーをもらいましたが、今年度も、生徒一人ひとりの活躍を見るためにできるだけ足を運ぶ予定です。私は、試合会場に着くと、緊張し始め、試合が始まると、「万騎中、がんばれ!」と、ドキドキハラハラしながら試合を観戦します。選手が活躍すると、ガッツポーズや拍手が自然と出てしまいます。また、試合が劣勢な時や、選手が失敗した時などは、大きな声で激励したくなるのを我慢しています。試合に負けても勝っても、選手達と顧問の先生達の必死な姿にリスペクトが生まれ、楽しませてもらっていることに感謝しています。

一方で、私は試合会場で気にしていることがあります。それは、試合に出場していない選手の動きや様子、チーム全体の雰囲気です。部員が多い部活動では、試合に出場できる選手は一握りだったりします。そういう中で、選手の一人ひとりが試合に集中し、チーム一丸となって戦っているのか、というところは気になります。私は、これまでに試合に出場していない選手も、必死になって声を枯らし、試合に参加している姿をたくさん目にしてきました。それだけでなく、率先して試合の前後に用具等を運んだり、グラウンド整備をする選手もたくさん目にしてきました。自分が試合に出られなくても、後ろで支えることに一生懸命頑張っている姿、出場している選手と同じ気持ちで試合に参加している姿に拍手を送りたいです。

大谷翔平選手が、インタビュー記事でこんなことを言っていました。「普段、小さなことを積み重ねているとある日、コップの水が溢れるかのように突然、何かができるようになる」、「野球って、失敗をしちゃダメなのに同じ失敗ばかりするものなんです。ああ、なんで同じことやってんのかなってことばかり。でも、たまー

にあるんです。今回もだめだろうなと思いつつやってみたら、あれ、これ、いい方向じゃん、正解だったのかな、と思える。(省略)」(Number1094より 図書室蔵書)

大谷選手は野球の技術についてのことを言っていると思いますが、私は、普段の生活の中にもこの感覚に近いと感じることがあります。それぞれの持ち場、役割の中でうまくいってないように見えることも、積み重ねていると、急にできるようになったり、のちに正解だったんだと思えたり。小さなことを積み重ねていくこと、あきらめずに粘り強く取り組んでいくことで、その先に見えてくるものがあると思っています。